

学 位 論 文 要 旨

研究題目

Impact of Recurrence on Functional Independence in Stroke Patients Treated in a Convalescent Rehabilitation Hospital

(回復期リハビリテーション病院で治療を受けた脳卒中患者の機能的自立に及ぼす脳卒中再発の影響)

兵庫医科大学大学院医学研究科

医 科 学 専 攻 高 次 神 経 制 御 系

リハビリテーション医学 (指導教授 道免 和久)

氏 名 金 田 好 弘

目的: 転帰予測は脳卒中後の患者におけるリハビリテーションの重要な要素である。しかし、脳卒中の再発がこれらの患者の機能的自立に及ぼす影響に焦点を当てた研究はわずかである。本研究では、回復期リハビリテーション病院のデータを用いて、脳卒中再発が機能的自立に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

対象と方法: 本研究では、2018 年 11 月から 2023 年 3 月の期間に当院の回復期リハビリテーション病棟で治療を行った脳卒中患者を対象とした。分析するデータとして年齢、性別、脳卒中の種類、脳卒中の再発、脳卒中発症から当施設への転院までの日数、総入院日数といった人口統計学的情報と臨床情報を収集した。さらに機能的自立度評価法の運動機能スコア (FIM-motor) および脳卒中障害評価セットの運動機能スコア (SIAS-motor) のうち入院時と退院時のデータを収集した。退院時の FIM-motor を従属変数として多変量回帰分析を行った。脳卒中再発を独立変数とし、年齢、発症から転院までの日数、入院時の FIM-motor および SIAS-motor 合計を共変量として入力した。過去の脳卒中による深部白質病変の大きさの影響を検討するため、Fazekas scale を用いて再発例をサブグループ (0-1 または 2-3) に分類し、両者間の転帰を比較した。

結果: 入院時のデータでは脳卒中初発患者と脳卒中再発患者の間に有意な差は認めなかった。上記の共変量で調整した結果、脳卒中再発は退院時の FIM-motor 低下の統計学的に有意な予測因子として浮上した。さらに、脳卒中再発患者において、深部白質病変が大きい患者は退院時の FIM-motor が有意に低かった。

結論: 脳卒中再発は FIM-motor 低下の独立した予測因子であることが判明した。さらに、脳卒中再発患者では、より大きな深部白質病変が FIM-motor スコアのさらなる低下と関連していた。これらの所見は、脳卒中再発が脳卒中患者の機能的自立に及ぼす負の影響を強調するものである。